

WAKAYAMA AZALEA ROTARY CLUB



Weekly Report

VOL. 12 No. 31 TOTAL 505 平成 22 年 3 月 15 日 第 524 回 例会

[例会日] 毎週月曜日 12:30~13:30

[例会場] 和歌山市湊通り丁北2-1-2 アバローム紀の国

[事務局] 和歌山市雑賀屋町52 南方ビル2階(〒640-8249)

TEL073-435-3470/FAX073-435-3472

E-mail: wa-az-rc@naxnet.or.jp

会長/山田 茂 [会報委員]
副会長/柴田 美和 ○栗山 久 ○新家 弘通
幹事/中村 善夫 黒田 忠嗣



2009-10年度
国際ロータリーのテーマ
ロータリーの未来は
あなたの手の中に
RI会長 ジョン・ケニー

2009-10年度
アゼリアロータリーのテーマ
『地域NO.1のロータリークラブを目指そう!』
-「和」・「楽」・「チャレンジ50」-

<本日の例会>

- 第 524 回例会 3 月 15 日(月)
- ☆夜間例会 ホテルアバローム紀の国18:30~
- ☆ワンワン基金街頭募金(雨天決行)
16:00~17:30 JR和歌山駅 近鉄百貨店前

<次回のお知らせ>

- 第 525 回例会 3 月 29 日(月)
- ☆内部卓話
「思い出の引き出し」 田原 サヨ子会員

<前回の例会記録>

- ローターソング それでこそロータリー
- ゲスト紹介 和歌山ダルク 代表 和高優紀様
- ビジター紹介 和歌山中ロータリークラブ 豊澤洋太郎様
- 出席報告 会員数44名
本日の出席 (3/8) 32名 72.72%
前々回修正出席 (2/22) 34名 77.27%
- メイクアップ 役員及びクラブ行事へ 5名

<四つのテスト>

言行はこれに照らしてから

- I. 真実かどうか III. 好意と友情を深めるか
- II. みんなに公平か IV. みんなのためになるかどうか

●市内8ロータリークラブ例会情報

クラブ名	日時	内容
和歌山北	3月15日(月)	会員卓話
和歌山	3月16日(火)	外部卓話「念願の教師になって1年」
和歌山東南	3月17日(水)	会員職業紹介 4名
和歌山西	3月17日(水)	ガバナー補佐をお招きして
和歌山東	3月18日(木)	卓話「意気に感ず」
和歌山城南	3月18日(木)	外部卓話「職責をこなすためのコミュニケーション」
和歌山南	3月19日(金)	第3回I.D.M.発表
和歌山中	3月19日(金)	DVD上映「秀吉の太田城水攻め」

会長報告



会長 山田 茂

みなさま、こんにちは！先週は、春の様な暖かな日が続いたのですが、今週は寒の戻りで、一転して真冬の様な寒さになりました。気温の変化が激しいです。健康管理には、十分にご注意ください。

ところで、本日は、和歌山中ロータリークラブより豊澤様がメイクアップにお越しです。豊澤様は、地区のクラブ拡大委員会の委員長として出向されております。先週の例会で「今年度中に、2640地区内に新しいクラブが誕生する可能性がある」と言うお話をさせていただいたのですが、豊澤様は正にその担当をされており、日々忙しくされているようです。本日は、ごゆっくりお寛ぎください。

さて、今日は例会における“委員会報告”の在り方について、皆様をお願いしたいことがございます。現在、当クラブより地区の方へ、ガバナー補佐として小門さん、青少年交換委員会に田原さん、会員増強委員会に辻さんが出向されていますが、出向されている会員さんは、地区での会議や各種事業について、例会の“委員会報告”の時間を利用して、会員の皆様にその報告をするとともに、様々な情報をフィードバックしてほしいと思います。また、各委員会の委員長様方も、「クラブ委員長会議」など地区主催の委員会が開催された場合は、必ずその報告をして頂きたいと思います。今年度は、私の方針として、「出来るだけ多くの情報を会員の皆様にお伝えしよう」と言うことで、理事会報告に加えて、市内9RCの会長幹事会やその他の会議等についても詳しく、その内容をお伝えしています。また、出向者をクラブ全体で応援し、支えようという基本方針でクラブ運営をしています。そうした状況の中で、勿論クラブ会員の皆様に於いても、出向される会員に対して「ご苦労様です」という気持ちは当然あると思うのです。

が、そうした報告や情報のフィードバックがなければ、「一体、どんな事やってんのかな？」で終わってしまうのではないかと思います。クラブ会員間の連帯感を高め、クラブ全体を発展させるためにも、是非、委員会報告の時間を活用して、地区や他クラブの情報を伝えて頂きたいと思います。

本日は、昨年に続いて薬物問題に取り組まれている、「和歌山ダルク 代表 和高優紀」様に卓話をしていただきます。昨年の「酒井のりこ=のりぴー」の事件は、マスコミでも大きく取り上げられましたが、私自身も「手話で歌を歌う“のりぴー”」に、好感を持っていましたので、大変ショックでした。本日の卓話を通じて、こうした薬物問題の現状について、皆様とともに考えてみたいと思います。本日の会長報告は、これで終わります。

幹事報告



幹事 中村善夫

- ①ガバナー月信（3月号）をポストイングさせていただきました。お読み下さい。
- ②来週（3月15日（月曜日））の例会は、夜間例会となっております。お昼に来ていただいても誰もおりません。くれぐれも、ご注意下さい。
- ③ガバナー事務所より、「麻薬・覚せい剤乱用防止センター」より本日の卓話にぴったりの雑誌を送っていただいております。回覧させていただきます。幹事報告は以上です。

委員会報告

◎広報委員会

常任委員長 柴田美和



ロータリーの友 3月号の案内
見どころ・読みどころ記事を紹介されました。

◎親睦活動委員会

委員長 西出隆一



（春の親睦日帰り旅行の件）
4月3日（土）奈良方面への親睦日帰り旅行の参加の返事を3月15日までお願いします。

多数の参加をお願いします。

◎社会奉仕委員会

委員長 太田完治



ワンワン基金 街頭募金の案内
3月15日（月）時間は、16:00～17:30
場所は、JR和歌山駅 参加の要望がありました。

卓話

「和歌山県の薬物問題の現状」



和歌山ダルク 代表 和高優紀 様

薬物依存症の回復支援団体「和歌山ダルク」に関心を寄せていただきまして有難うございました。アゼリアロータリークラブの皆様と、薬物問題の分かち合いをさせて頂くのは、今回二度目となります。前回は終わってから沢山お声をかけて頂き、皆様がこの街の次世代の若者達が安心して暮らして行ける様に強く願っておられる事が伝わってきました。

DARCダルクとは、D・ドラッグ薬物、A・アデクション依存症、R・リハビリテーション、C・回復支援センター施設という意味です。施設のスタッフは全員薬物依存症者当事者の回復者やその家族です。ダルクは当事者活動、つまり自助グループです。現在ダルクは全国に74箇所御座います。基本的には入寮治療施設ですが、和歌山ダルクは運営難のため閉鎖となり、現在は事業を縮小し、相談業務・刑務所の薬物予防離脱指導・講師派遣・家族のケア・女性の薬物依存症の通所プログラムをメインに行っています。薬を使い続ける事だけが問題ではなく、薬物を使う前の生き辛かった問題を解決するため、生き方を変えていくプログラムです。過去の生き方を変えるために、使っていた場所を離れ、生きるために必要だった薬物を止め続けて、病気の本質を学び、回復し続ける努力を推進します。このため和歌山県の薬物依存症者は他県のダルクに回復を求めて何人もプログラムに参加しています。

和歌山県の薬物問題の現状についてですが、相談業務や学校講演から見えてくるものは、経済苦の問題です。和歌山の場合は、経済の問題と薬物は切り離せません。学校の講演依頼を頂く中で、高校を卒

業しない生徒さんの数があまりにも多くて驚きました。生徒さんのご家族の経済苦が大きな問題の一つでもあります。中卒のお子さん達の就職先は、希望する仕事や条件があっても、沢山の職種から選ばれません。そして、慣れない都会に出て行くケースも有るでしょう。住み込みで他県で働いていた若者が、薬物によってボロボロになって和歌山に帰って来たケースも多いです。高校の学生生活からドロップアウトした子供達のその後の生活が危険にさらされています。又、薬物依存症の回復支援が大変遅れていて、相談に来られる方も40代から50代が目立ちます。若い頃、治療のアプローチを受けた経験が無い方達です。薬物依存症者が治療の一步を踏み出すには大変時間がかかります。私達に出来る事は、薬物依存症は病気として治療が必要だという事を伝えていく事だと思います。生き方の病です。大人が本来知っておくべき一般的な公衆衛生学の中に依存症も入れて頂きたく存じます。まずは、周りから変る事が大切です。その事により、一握りの人達は危険を回避出来る可能性があります。経済問題の改善の取り組みはもちろんの事、薬物依存症者にメッセージが届けられる大人が増える事を私は願っています。医療・行政・司法の皆様は、薬物問題の取り組みをしてもそれぞれのお役目がありますので、聞きとられていない現状が有るかも知れません。しかし民間のダルクは、取り締まる事や更生が目的では有りません。一緒に生きてゆくスタンスを取っています。ここは何でも話せて正直になれる安心出来る居場所なので、現状を深く把握する事が出来るのが我々の活動の特徴だと思います。これからも、メッセンジャーとして活動を続けていきたいと思っています。ロータリーの皆様、私のメッセージを受け入れて頂き、心より御礼申し上げます。有難う御座いました。今後とも宜しくお願い申し上げます。

余白つぶし

食卓の知識 【雑学 知ってるようで知らない知識】

炭焼き肉がおいしいわけ

炭火で焼いた肉は、中まで火が通っていて、汁もありおいしいのは、炭火の温度が肉を焼くのに丁度よいからだ。肉は150~200度で焼くのがいちばんおい

しいと言われている。その点炭火だと適温が得られる。フライパンではこの温度を保つのはむずかしい。厚い肉をフライパンで焼くと、表面がこげて中は焼けていないことが多い。その点炭火だと中まで程よくやけるので「紀州備長炭焼き」などと看板に揚げて炭火焼を売りものにしてしている店もある。しかし忙しい現代人には炭火をおこす暇もないし、コンロを置く場所もない人が多い。

それで近頃はガスコンロで焼ける便利なものが売り出されているので、紹介しておこう。これはやや大きな鍋で、ドーナツ型に中央が開いていて、ここに人口炭を置き、これがガスの火の上にくるようになっている。この上に鉄板が鍋蓋のように置かれている。はじめ人口炭を数分熱しておいて、あとは弱火で焼く仕組みだ。人口炭を通して間接的に鉄板を熱くするので、ほどよい温度が得られ、よくやけるというわけだ。

言葉とことわざの知識

【雑学 知ってるようで知らない知識】

「あほう」と「ばか」は親子関係

「ばか」という語はサンスクリット語（梵語）で「無知」の意の moha が中国語の「慕何」をへて、日本語の「ボカ」「バカ」になったという説がある。「馬鹿」はあて字。

なお「慕何（バッカ→バカ）」とも書くが、これはサンスクリット語を漢字に写したものかもしれない。

なお、昔秦の丞相の趙高が、二世皇帝に「鹿」を献じてこれをわざと「馬」といった。趙高の権勢を恐れた人々はみな趙高の言にしたがったという故事があるが、鹿を馬と言われてその区別がつかなかった二世皇帝の愚かさから「馬鹿」という言葉が生まれたという説もある。

関東では「ばか」というのを、関西では「あほう」という。「ばかづら」は「あほづら」、「ばかの一つ覚え」は「あほうの一つ覚え」、多少表現は違うが「ばか正直」は「あほう律儀」といい、「ばか」も「あほう」も愚かさを意味する点は同じだ。しかし東京の人は「ばか」と言われた時より、「あほう」と言われた時のほうがこたえるが、関西の人はこの逆のようだ。

次に「あほう」の語源について述べよう。

秦の始皇帝は咸陽付近の阿房という土地に宮殿を造ったが、築造に従事した囚徒は70余万人というほどの大きな宮殿で、土地の人は阿房にあるので「阿房宮」といった。項羽が二世皇帝を滅して、これに火を放ち、三ヶ月も消えなかったという。始皇帝が阿房宮を造って国を亡ぼしたことから、愚かさを「阿房」というようになったとの説がある。なお「阿呆」とも書く。

始皇帝の阿房宮は「あほうきゅう」というから、阿房は「あほう」とも読むべきだが、「あほう」の漢字として使われるのはなぜか。阿呆は「あほう」とも「あほう」とも読める。呆は「愚か」の意で、痴呆の呆でもある。阿呆の阿は「親しみを表わし、人を呼ぶときの冠詞」だそうだから阿呆というのは「おばちゃん！」というところか。阿呆は「あほう」とも読めるので阿房宮と結びつき、始皇帝説が生まれたのかもしれない。

古い川柳に「名の高い阿房と馬鹿は親子也」とあるように、「あほう」と「ばか」の代表は始皇帝と二世皇帝ということになる。

*サンスクリット・・・完成された言語の意。紀元前1200年頃からインドで宗教語、文学語として用いられた。インドヨーロッパ語族のインドアリア語派に属する言語。

言葉とことわざの知識

【雑学 知ってるようで知らない知識】

「大根役者」は馬の足

芸へのたな俳優をあざけて、大根役者という。そのいわれは、歌舞伎で張り子の馬の中の前足、後足になる役を馬の足といい、転じて下級の役者、へたな役者のことも馬の足という。またその足の連想から大根役者という言葉が生まれた。

なお大根は、生でも煮ても酢にしても、どのようにして食べても、お腹をこわすことがない・・・あたらない（芝居が受けない）・・・ところからとも、また大根は白いので、「しろうと」に関連させて、へたな役者を大根役者というとの説もある。

これに反し、一座の中心になる役者のことは「立役者」という。転じて重要な役割をする中心人物のこともこういう。

【信じて行けば、大きな力が導いてくれる】

「空海 黄金の言葉」より抜粋
衆生癡暗にして自ら覚るに由しなし。如来加持してその帰趣を示したもう。

「念持真言理観啓白文」

大事ななのは自分を信じ、相手を信じる心

仏道を志すかどうかは別として、「悟り」という苦のない安らかな境地を知りたいと思う人は多いでしょう。しかし、便利さや快樂ばかり求め、世俗の垢にまみれた現代の私たちでも悟りを得られるのか、そこは大いに疑問です。おそらく空海の生きた昔にも「こんな愚かな私でも悟りという救いを得られるのか」と不安を抱いた人は多いでしょう。

空海はそうした不安に答えています。「凡人は愚かで真実に気づかず、自分の力だけで悟ることはできないもの。だからこそ仏が力を貸して悟りにいたる道を示してくれるのだ（如来加持してその帰趣を示したもう）」と。

「加持」とは仏がその不思議な力で人々を守ること。密教では、とくに仏の力と人々の信仰が相応じて、一体となることをいいます。

仏教を離れて考えてみても、大事なのはやはり信じる心なのです。仕事でも恋愛でも、自分の人生をよりよくする道を信じていくこと。自分を信じ、仲間を信じ、愛する人を信じる。見えない大きな力が導いてくれます。

S・A・A 報告 【3つの箱】

*ニコニコ箱

小門蔦子会員 啓蟄もすんだのにまだまだ寒いです。3回も休んでしまいました。3月分です。

太田完治会員 和歌山ダルクの和高優紀様、ようこそおいで下さいました。本日卓話宜しく願い致します。

本日合計額 10,000円 今年度累計額 971,000円

*ロータリー財団

太田完治会員

本日合計額 2,000円

*米山奨学

太田完治会員 小門蔦子会員

本日合計額 8,000円